

クラブの過去 現在未来

DJ 沖野修也



おきの・しゅうや 1967年生まれ。DJ、作曲家、執筆家。世界30カ国120都市で公演経験あり。

=5=(最終回) クラブ文化を守る

海外では、クラブDJの地位が高いだけでなく、行政がクラブを重要視し、クラブを積極的に守ろうとしている都市もあります。この4月にはドイツのベルリン市が、地価高騰により余儀なく移転や閉鎖に追い込まれたクラブの救済のために100万ユーロ(約9800万円)をかけて音楽協会を設立する予定があると発表しました。ベルリンは、優秀なDJや音楽制作者が活動を続ける世界的なクラブの拠点で、ヨーロッパ中から観光客

が集まり、ナイト・ライフを楽しんでいます。言い換えれば、クラブが同市の主要産業の1つとして認められているということです。

今や、観光や飲食、そして音楽といった産業の一角で存在価値を発揮するDJとクラブ・シーン。海外ではその振興と保護を国や市も認めたことはこの連載で紹介しました。

実際には日本でも、DJは作曲家兼プロデューサーとして音楽業界を支える大きな役割を果たして

「ダンス規制法」の見直しを求めます

ダンスは若者文化の中心。音楽に次ぐ文化として、社会に受け入れられたい。そのためには、規制を緩和し、文化として認められたい。そのためには、規制を緩和し、文化として認められたい。



「クラブを守ろう」と次々と署名する若者
(7月29日、フジロック・フェスティバル会場)

います。CHARAやUA、bird、AcoやMISIAといったボーカリストたちの成功にはDJが関わり、日本語のポップスの音楽センスを向上させました。日本人のTOP DJには海外からも注目を集める人が少なくありません。日本発信の若者文化は、アニメや漫画だけではないのです。彼等のような日本を代表し、国際的に認知されるDJも、元はと言えばクラブでの地道な活動を経て世界に羽ばたいていったのです。

クラブ・シーンの基本は、あくまで音楽演奏やアート・パフォーマンス、グラフィックやビジュアル制作等の自由な表現の発信です。その上に、来場者たちが新た

な情報やコミュニケーションを獲得してきたことで、クラブ文化として成熟しました。

「クラブを守れ」の声が上がっています。クラブを守ることは、そこで働く人の生活や通う人の楽しみを守るということに留まらず、人間が人間らしく生きるための“文化を守る”ということなのではないでしょうか？ 音楽を聴くこと。踊ること。人と出会うこと。話すこと。そして、音楽やアートを作ること…。人間が文化的な生活を営む上で大切な事がクラブで手に入れられるのです。これからも僕は、クラブの魅力を、音楽と文章で多くの人々に伝えて行きたいと思います。(おわり)